

会報 (第7号)

目次

- 新年ご挨拶
 - ・ 斎藤英四郎会長
 - ・ 河野洋平外務大臣
 - ・ サンチス駐日アルゼンチン大使

- 亜日友好交流-世紀の足跡 (上)

- 現地便り

- アルゼンチン近況
 - ・ 経済・政治

- 新生アルゼンチンに日本の協力を
 - ・ 第16回日亜経済合同委員会・亜国人大挙来日
 - ・ アルゼンチン工場へ進出の理由
 - ・ 日本/アルゼンチン/日本両協会連携を強化

- 文化行事のお知らせ

- 魚の王様〈ペヘレイ〉養殖大成功

- 人事往来



社団法人 日本アルゼンチン協会

会報第七号 一九九五年一月十七日発行
 発行人 渡部 康夫
 編集人 渡部 透夫
 千代田区内幸町一ノ二ノ二
 日比谷ダイビル一七〇五号室
 電話 (三三〇二) 四六八四番
 FAX (三三九五) 三九三二番

謹 賀 新 年
 1995年正月
 社団法人 日本アルゼンチン協会
 役員一同

新 年 ご 挨拶

○齋藤英四郎 会長

協会会員のみなさま、明けましておめでとうございます。

ここ数年来、アルゼンチンの目覚ましい躍進ぶりは、世界の注目を浴びています。

いまや、アルゼンチンは中南米諸国のなかで、政治・経済面で最も安定した国の一つと評価され、わが国との関係もいよいよ緊密の度を深めています。昨年11月、東京における日亜経済合同委員会会議に、カバーリヨ経済大臣をはじめアルゼンチン財界を代表する60数名の方々が大挙して訪日されたことも、それを物語るものと思います。

新年から、南部南米の自由貿易連合である「メルコスール」が発足しました。今年もアルゼンチンはさらに進展するものと期待されます。

日頃、日亜友好に携わっている当協会としても、今年はさらに、充実した活動をすすめていきたいと存じます。

会員各位のご健康とご発展、ならびに当協会への更なるご理解とご協力を期待して、新年のご挨拶といたします。

○河野洋平外務大臣

新年に際し、日頃我が国とアルゼンチンの間の交流の促進に尽力されている日亜協会の皆様にご挨拶申し上げます。

アルゼンチンは、ここ数年、メネム大統領の卓越した指導の下、自由開放経済政策を強力に推進しつつ、経済安定化に努力され、今日では中南米地域で政治的経済的に最も安定した国の一つとなっております。また、積極的な姿勢で活発な外交を展開されていることも国際社会において高く評価されているところであり、新たなアルゼンチンのイメージは、わが国においても定着しつつあります。私が昨年9月にアルゼンチンを公式訪問した際には、アルゼンチンのこうした政治・経済・外交面での変革を目の当たりにして大変強い印象を受け、同国の様変わりの状況を実感致しました。

こうしたアルゼンチンにおける変革、また、我が国の国際的役割の増大に伴い、アルゼンチンと日本の間では、現在、関係緊密化の機運が生まれています。特に政治の分野では一昨年末のメネム大統領の訪日や昨年9月の私のアルゼンチン訪問等の機会

を通じ、二国間関係のみならず国際場裡における日亜間協力等について大変有意義な対話が行われております。また、経済分野においても、我が国からアルゼンチンへの新たな投資もおこなわれており、先般東京において開催された第16回日亜経済合同委員会も、アルゼンチン側から以前に増して高いレベルでの参加が得られ、盛況であったことは記憶に新しいところであります。

今後、こうした関係緊密化の機運を活かして日亜両国においてあらゆる分野でより一層の関係強化が行われることが期待されており、我が国政府としてもできるかぎりの努力をする所存です。

最後に日亜協会の皆様のご発展と日亜友好関係のより一層の強化を心からお祈りして私の年初の御挨拶とさせていただきます。

○サンチス駐日アルゼンチン大使

日本・アルゼンチン協会会員の皆様、アルゼンチン大使館を代表して、みなさま方の新年における益々のご繁栄及びご健勝をお祈り申し上げます。

本年も日ア両国間のすばらしい関係が幸先よく始まることを心から願うものであります。これらの関係が政府レベルのみならず、貿易、文化及びスポーツの分野においても、さらに満足すべき、かつ強化されることを期待します。

同時に、日本・アルゼンチン協会が遂行している貴重な業務に感謝すると共に、本年は貴協会及び当大使館が両国民間の友情を尚一層確固たるものにするための協同活動を増進することを切望するものであります。かかる意味で大使館は共通する全ての創意に全力をつくす所存でございます。

編 集 者 注

サンチス駐日大使夫人ポリーフェルマンさんのピアノ・コンサート（文化行事ご参照）は新春にふさわしい演奏会。中南米の香りに満ちた名曲を、会員多数のご参加を得て鑑賞したいものです。

『亜国側から見た亜日友好交流一世紀の足跡』（上）（要約）

駐日アルゼンチン大使

ホセ・ラモン・サンチス・ムニョス

○日亜交流黎明期

日亜両国間の公的交流関係は約一世紀遡る。実際に明治31年ワシントンにおいて修交通商条約が調印され、明治34年に発効した。同条約第1条に「アルゼンチン共和国及び日本帝国間並びに両国民の間に連帯と友好が存在する……」云々と記述されている。

しかし、上記調印式の15年前に、既に民間の接触が始っていた。即ち、明治5年亜国に曲芸一座が来訪、明治12年には歌舞伎劇がブエノス・アイレスで上演され深い感銘を与えた。

明治19年に日本人第1号牧野金蔵が亜国に定着、亜国人女性と結婚し家族を設けた。

明治22年亜国商船大学練習船“サルミエント号”が世界一周の処女航海の途次横浜へ入港、船長は明治天皇より拝謁を賜った。明治35年亜国政府は最初の外交使臣アルフォンソ・デ・ラフェレレを横浜駐在総領事に任命した。他方日本政府は駐ブラジル大越成徳弁理公使が亜国を兼轄した。

○日露海戦

1年後両国の深い友好関係を象徴した事件が発生するのである。

日露戦争前に日本帝国は強力な帝政ロシア艦隊に対抗するため艦隊の補強に熱中していた。当時アルゼンチン共和国はイタリアで2隻の近代装甲艦“モレノ”及び“リバダビア”を建造発注済みであった。両艦の装備の細目については、既にアルゼンチン海軍将校による検査が終了し引き渡し寸前であった。明治36年末亜国政府に対し、上記軍艦2隻を日本帝国海軍への譲渡を交渉するため、日本政府特使がブエノスアイレスへ派遣された。譲渡が成立、日本へ回航され“日進”及び“春日”とそれぞれ命名され、旅順港攻撃及び対馬沖海戦に参戦、日本の優位を決定づける貢献を行った。両艦建造の指導監督を行った亜国海軍大佐マヌエル・ドメック・ガルシアは両艦を日本へ運航し、東郷元帥と戦争中に友情が芽生え観戦武官として活躍した。後日同大佐は5冊の観戦記を執筆した。私は（サンチス大使）去年4月6日日本海上自衛隊に同観戦記を寄贈する事ができ喜んでいる。

○邦人移住者

20世紀前半において、両国関係は着実に進展する流れの中で日本人移住者は亜国法律のもと、何ら差別を受ける事もなく定住した。これら移住者は移住地を形成すると

共に土地に愛着を抱きながら勤勉に働き、祖国の習慣を守りながらアルゼンチン社会に貢献した。同移住者は全国に散在し、特に首都近郊では花卉及び蔬菜栽培のパイオニアであった。

○経済交流

亜日文化協会は、戦後ア国文化人及び企業家によりブエノス・アイレスに創立され、又、日本アルゼンチン協会も同時期に日本人実業家等により設立された。

両国間の貿易は亜国の伝統輸出産品が日本人の嗜好に合わなかったにも拘らず徐々に増進して行った。亜国は主として羊毛、穀物及び冷凍肉を輸出、逆に日本からは絹、織物及び若干の工業品を輸出した。

○文化・教育交流

大正13年、世界一周の水上機“ブエノス・アイレス州”号でペドロ・サニ飛行士が鹿児島に到着し、時の天皇陛下より栄誉及び歓待を賜った。昭和7年世界的に有名な日本人画家藤田嗣治が来亜し、しばらく滞在した。昭和7年日系人社会は亜国に定住する日系子弟のため日本人学校を日本外務省の援助で創設した。又、東京ではアルゼンチン僧エルネスティナ・ラマリヨが長い年月の努力により、最初のカトリック教育機関を創設し、現在の清泉女子大学までに拡大発展させる基礎を築いた。

(事務局長 渡部 透 訳:なお、続きの戦後の部(下)は次号に掲載致します。)

現 地 便 り

○コロロン劇場で池田SGI会長の生命観の交響曲初公演

世界的に有名なオペラ劇場、テアトロ・コロロンで画期的な演奏会が催された。12月5日夜、ブエノス・アイレス交響楽団、国立合唱団、ソプラノ、バリトン、バスの独唱者による曲目は、LA VIDA, UN ENIGMA (生命、その不思議なるもの)。この曲はSGI (創価学会インターナショナル) 池田大作会長の西語版著作「生命を語る」に触発された同交響楽団指揮者ペドロ・パブロ・ガルシア・カフィ氏が作詩、有名な作曲家サルバドール・ラニエリ氏が作曲したもの。

曲は5楽章のオラトリオ形式で1) 生命観照の眼2) 人間と生命3) 時の謎4) 永遠の生命5) 悟達からなり現代風の作曲法による、かなり斬新で専門的な曲想であった。

一日本人の生命観と宇宙観に共鳴した南米の著名な作詩・作曲による大曲が現地の一流演奏家により、伝統と権威を誇るブエノス・アイレスのオペラ劇場で公演された。これは、史上初の画期的な偉業であり、テアトロ・コロロンの上演史に新しい一頁をつけ加えることになる。 (らぶらた報知)

アルゼンチン近況

◎経済・政治

○MIGUEL ANGEL BRODA 研究所が95年経済見通しを発表した。政府見通しと対比すると以下にみるとおり BRODA 研究所はより厳しい見通しをたてている。

	政府見通し	BRODA 見通し (単位100万ドル)
経済成長率 (%)	6.5	4.6
輸出	17,422	17,500
輸入	21,787	22,700
貿易収支	▲ 4,365	▲ 5,200
経常収支	▲ 7,905	▲ 11,268

○ブエノス・アイレス圏のガス配給会社 GAS DEL ESTADO はすでに民営化されていて株式の70%は GAS ARGENTINO (株主は BRITISH GAS, PERES COMPANC, ASTRA, APDT)、10%は従業員が保有し、残り20%は未だ政府保有であったが11月に一般に売却され100%民営化された。

○アルゼンチン・ペソの過大評価が懸念されているところ、カバロ経済大臣はコンバーティビリティ・プランで最重要事項は①単一通貨でなく他の通貨(ドル)との選択を認めていること、②価値修正の禁止、③アルゼンチン通貨の価値確保、でありドル対ペソが1:1であることではないとチリーアルゼンチン商工会議所で語った。

95年政府予算案にて内外債務の元利支払必要額が明らかにされた。カバロ経済大臣によれば資金の大半は民営化収入により賄われる予定である。

(単位100万ドル)

金利支払	3,640.1
国内債務	169.8
対外債務	3,470.3
元本償還	5,088.5
国内債務	847.5
対外債務	4,241.0
合計	8,728.6
DEBT - SERVICE RATIO (%)	2.8 %
(元利支払/GDP)	

○94年1-10月の貿易収支は輸出12,744百万ドル、輸入17,645百万ドルで4,901百万ドルの赤字である。年間の赤字は60-65億ドルになると見込まれている。
10月の対ブラジル貿易収支は91年8月以来38カ月ぶりで黒字となった。

○95年5月の大統領選挙をひかえ各党の現況をとりまとめると次のとおり。

ペロン党：メネム再選へ向けて動いているが副大統領候補は未定

急進党：大統領候補マサチェッシ（現リオ・ネグロ州知事）、
副大統領候補ヘルナンデスで決定

FRENTE PAIS SOLIDARIO：

ボルドン（PAIS）、アルバレス（FRENTE GRANDE）、
UNIDAD SOCIALISTA, DEMOCRACIA CRISTIANA の4党
連合。

ボルドン、アルバレスのうちどちらが大統領候補となるか未定。
FRENTE GRANDEより離党してCORRIENTE GRANDE を結成
したソラーナの動向も注目される。

（筆者：東京銀行 小林晋一郎氏）

.....
○国際協力事業団（JICA）アルゼンチン経済開発調査（大来Ⅱ調査団）

同調査団は昨年7-10月のア国調査及びプログレスレポートを提出し1994年度の第1次調査作業を実施、本年1月にア国との現地打合わせ、2月にア側カウンターパート（経済省）来日打合せを行った上で3月にインテリム・レポートを提出し1995年度の第2次調査テーマを決定する予定。

○在ア大来（オオキタ）財団会長等の本邦における動静

アルチュロン会長、タカクス副会長は1994年11月10-11日開催の第15回日亜経済合同委員会出席の為来日、同会議終了11月16日まで滞在し下記財団独自の活動を行った。

(1) 大来財団日本委員会開催

昨年11月14日同委員会河合世話役（国際開発センター会長）、諸橋委員（日亜経済委員会委員長）、宮崎委員（大和総研理事長）、内海委員（慶應大学教授）ならびに高垣東京銀行頭取の参加を得て委員会を開催、サンチス・ムニョス在日ア国大使も特別参加され日亜経済合同委員会会議／投資セミナーの効果や大来財団の役割（カバロ経済大臣支援の下、ア国経済省の補助金を得て日ア間の経済関係強化へ向け両国官民のコーディネーションや情報センター活動）につき有意義な意見交換を行った。

(2) 日本官民要人との会合

大来財団東京支部（河合代表）のアレンジにより昨年11月14日－16日に下記官民要人を歴訪し上記大来財団の役割等につき説明し、有意義な意見交換を行った。

官側：竹下衆議院議員（元総理）、河野外務大臣

民側：豊田経団連会長、速水経済同友会会長、永野日経連会長、由布日本国際協力機構社長、他民間有力会社首脳

（筆者：国際開発センター 齊木茂治氏）

新生アルゼンチンに日本の協力を

○第16回日亜経済合同委員会・亜国財界人大挙来日

既報、日亜経済合同委は昨年11月10～11日、ホテルニューオータニで開催され、亜国側から、時の人カバーロ経済大臣ほか大物財界人が大挙して来日、わが国への熱い眼差しに、日本側は圧倒され気味だった。

議長諸橋三菱商事会長、副議長ゴメス亜国銀行協会会長のもと参加者150名、全体会議について第一分科会「貿易・運輸・金融」、第二分科会「投資・技術協力」で討議がすすみ、第三回全体会議ではメルコスールの進捗状況、ついでカバーロ大臣の亜国経済の現状と展望に注目が集まった。

閉会式のあとに引き続く亜国大使館主催の「アルゼンチン投資セミナー」では、再度カバーロ大臣が登場し亜国経済の問題点を解説しつつ、わが国への亜国への投資促進を熱心に訴えた。亜国側主催のレセプションは、広尾の大使公邸で催された。

亜国側の参加者（マガリーニョ経済省工業庁長官、アルチュロン農牧協会理事、バゴ投資財団理事長、エステンソロ石油公社総裁、ロカ・テチント社社長、ソラキン石油化学社長など）に比べ、日本側はむしろひかえめで、両国間のヴォルテージの落差は当合同委発足時より逆転した様相をみせており、次回の亜国における第17回会合に課題を残した。

○アルゼンチン工場へ進出の理由

「アルゼンチン投資セミナー」では亜国側は、カバーロ経済大臣ほか、政府および民間代表により、投資誘致の熱心な説明があった。中でも注目されたのがトヨタ自動車の現地進出の立役者である富永取締役の発言。

トヨタの工場進出を決断した理由をつぎのように述べ、今後のアルゼンチンへの投資促進に有益な情報の提供があった。

1. よきパートナーを得たこと。
2. メネム政権による政情の安定性があること

政府施策の一貫性および透明性があり、長期的見通しにゆるぎないものが見られる。

3. 技術力のある中小企業が存在していること。
4. 教育レベルが高く、優秀な労働力が確保できること。

トヨタ自動車は、昨年12月5日、ブエノス・アイレス州サラテ（ブエノス市より北西85 KM）の工場現場で、メネム大統領、小宅駐ア大使ら300名の政財界人の出席をえて盛大に定礎式を行った。

96年の稼動予定で、年間2万台のピックアップ・トラックが生産される。

○日本／アルゼンチン／日本両協会連携を強化

第16回日亜経済合同委員会に出席のため来日した、アルゼンチン日本協会（ブエノス・アイレス）のC.J.フラギオ会長（元駐日アルゼンチン大使）と、両協会の緊密な連携をさらに深めようと、具体的方策などについて協議を重ねた。

昨年11月13日午後、両協会代表は中小企業事業団を訪問し、今後のアルゼンチン向け、わが国の中小企業の投資、進出について、情報、技術面での無償協力の提供の可能性について懇談した。

両協会は、文化面のみならず、こうした諸活動へのサポートを今後積極的に推進し、日本／アルゼンチンの新しい経済友好関係促進にむけた情報交換をすすめることとした。

文化行事のお知らせ

○ロベルト・アウセルのギター・リサイタル

1月27日(金) 19:00 東京文化会館小ホール
(JR又は銀座線上野駅下車 都歩3分)

入 場 券 : S ¥6,000円、 A ¥5,000円 (全指定席)
(当協会会員は1,000円引き)

連 絡 先 : ソティエ音楽工房 (03 - 3470 - 2727)

○ペドロ・ルイス・ラオタの「アルゼンチン・ノスタルジア」写真展

自然と人間を愛し続け、独特のアールデコ・スタイルで情趣を描いたラオタはアルゼンチンを代表する写真家(1934~86年没)で、カンヌ・シネマ・フェスティバルでは世界中の2,500人の写真家の中で第2位、又1969年には世界ベスト・グラフィック・フォトグラファーに選ばれた。今回アルゼンチン大使館の後援で作品約50点が展示される。

2月1日(水)~14日(火) 10:00~18:00 (日曜・祭日休館、入場無料)
コダック・フォトサロン (ニックス銀座ビル2F、中央区銀座6-11-4)
(銀座線銀座駅下車、松坂屋の裏方向)

連 絡 先 : 03 - 3572 - 4411

○ポリー・フェルマン(駐日アルゼンチン大使夫人)の南米音楽ピアノ・コンサート

2月3日(金) 19:00 東京文化会館小ホール
(JR又は銀座線上野駅下車 徒歩3分)

入 場 券 : S ¥5,000円、 A ¥4,000円 (全指定席)
(当協会会員 10%割引)

連 絡 先 : 03 - 5420 - 7101 (ア大使館川畑さん)

○長田小学校・アルゼンチン共和国友好60周年記念コンサート

前号でお知らせのとおり、11月19日に長田小学校(茨城県猿島郡境町)とアルゼンチン共和国との友好60周年ならびに、この友好関係を築いた野本作兵衛翁の満100歳をそれぞれ祝って境町中央公民館において、同校PTA主催により祝賀会が開催され、ドナート・ラシアッティ楽団がタンゴを演奏、最後に同校児童がカミニートを西語で合唱して、駐日アルゼンチン大使代表及び同楽団が感涙にむせぶなど盛会裡に終了した。

魚の王様<ペヘレイ>養殖大成功
安田ペヘレイの里

「養殖が必要に追いつかず、嬉しい悲鳴の毎日です」

この平成不況の真っ只中に、操業をフル回転しても注文に応じきれないところ
――埼玉県熊谷駅から車で約20分の関東平野に造成された壮大な養魚場がある。

何処からともなく、聞こえてくるペヘレイのメロディー

ペヘレイ 泳げ ペヘレイ

ふえる ぼくらの ように

ペヘレイ 泳げ ペヘレイ 海こえて

タンゴの国から 桜の国へ

なかやしこよし 縁むすび

ペヘレイ 泳げ ペヘレイ 海をこえて

ア国在住の詩人 杉田俊夫氏が、かつての親友 細川隆元氏（戦前ブエノス特派員として滞在し、帰国後は政治評論家として活躍）にあてて贈った望郷の歌である。

この歌を贈った人も、贈られた人も、今やともに故人となられてしまったが、アルゼンチンから日本へ来たペヘレイは、今もはつらつとして増殖されている。

安田ペヘレイの里訪問記を次号に掲載の予定です。

人 事 往 来

(平成6年11月以降)

1. 来日 マルタ・アルゲリッチ ピアニスト 11月初旬
 - ・日亜経済合同委員会 (11月10日～11日)
カバロ経済相
アルチュロン大来財団会長等
 - ・パブロ・オスカル・ピント 前ラ・プラタ市長夫妻 (12月末～1月中旬)
 - ・サッカーチーム ベレス・サルスフィールド
(12月1日トヨタ・カップ出場、ACミランに2対0で勝利)
2. 外務省人事異動 (1月10日付)
 - ・永井慎也中南米局審議官→日本国際問題研究所へ出向
 - ・堀村隆彦日本国際問題研究所→中南米局参事官
 - ・三輪昭中南米第一課長→経済局国際経済第一課長
 - ・佐藤悟在メキシコ大使館参事官→中南米局中南米第一課長

あ と が き

○本年もよろしく各位の御協力をお願い申し上げます。

なお、次号 (第8号) は4月発行予定です。